

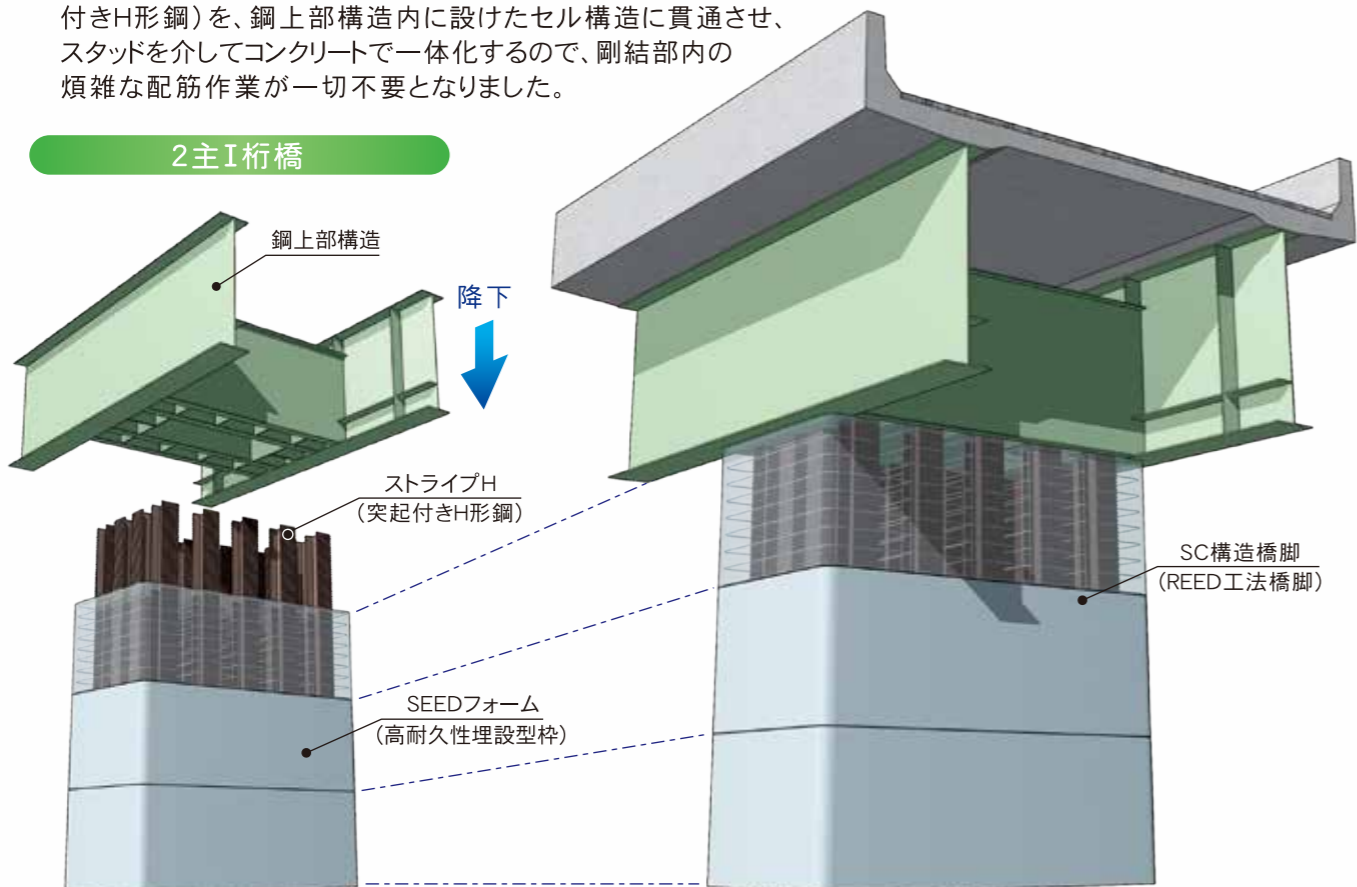
RI-Bridge工法の概要

RI-Bridge工法 *Rapid Integrated Bridge Construction Method*

RI-Bridge工法は、コンクリート系橋脚と鋼上部構造とを剛結してラーメン形式の上下部一体構造を構築するケースにおいて、簡易な方法にて短期間に剛結部を構築する工法です。

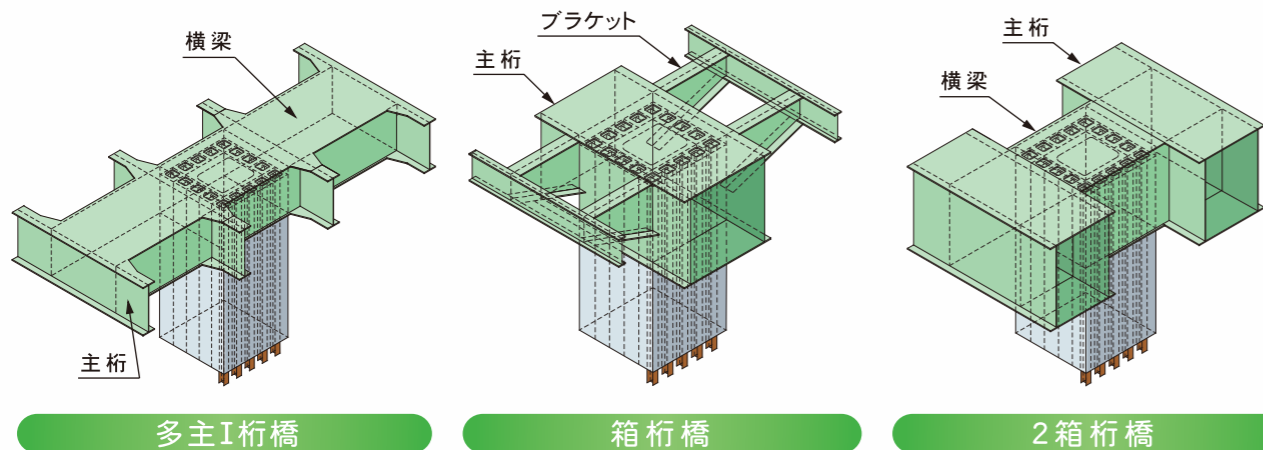
剛結部は、一次施工完了後の鉄骨コンクリート複合構造橋脚（SC構造橋脚）上に、鋼上部構造を降下させた後、コンクリートを充填するだけで構築されます。このとき、SC構造橋脚のストライプH（突起付きH形鋼）を、鋼上部構造内に設けたセル構造に貫通させ、スタッドを介してコンクリートで一体化するので、剛結部内の煩雑な配筋作業が一切不要となりました。

2主I桁橋



【剛結構造の単純化による施工時間の短縮と省力化】

2主I桁橋以外への適用構造例



多主I桁橋

箱桁橋

2箱桁橋

RI-Bridge工法の特徴

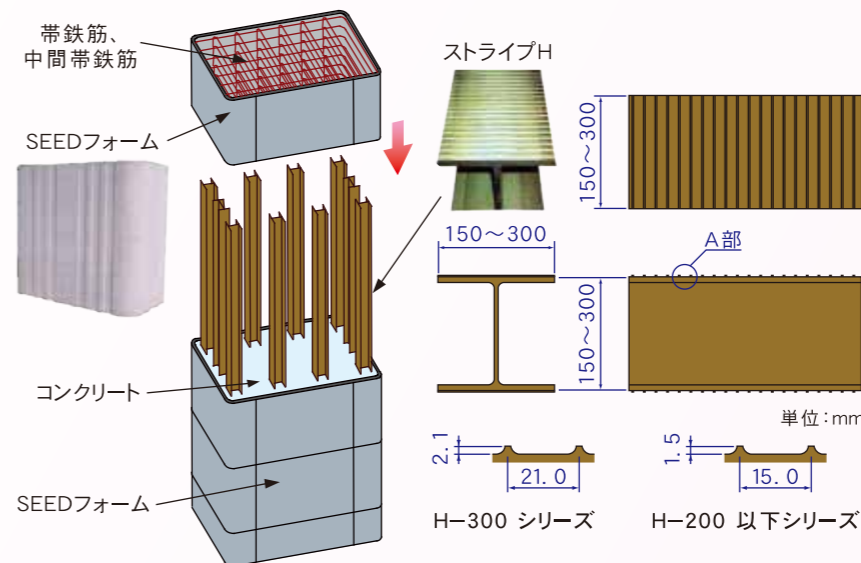
上下部一体構造のメリット

- 1 橋脚、桁を含む構造全体系で挙動するため、耐震性能が向上します。
- 2 落橋に対して安全です。
- 3 支承が不要となり、メンテナンスに要する労力・費用が削減できます。

耐震性・
耐久性が
向上します

鉄骨コンクリート複合構造橋脚(SC構造橋脚)によるメリット

- 1 ストライプHを主鋼材とする鉄筋コンクリート複合構造橋脚であり、橋脚部の耐震性が向上します。
- 2 橋脚部の躯体表面にSEEDフォーム（高耐久性埋設型枠）を使用するため、耐久性に優れます。
- 3 施工手順は、鉄骨の建込み、SEEDフォームの設置、コンクリート打設、といった単純化された作業の繰返しとなっており、急速施工が可能です。



【橋脚部のプレハブ化による施工時間の短縮と省力化】



【鉄骨の建込み】



【SEEDフォームの設置】

工期が
短縮
されます

セル構造による上下部剛結工法のメリット

- 1 鋼板の拘束効果により、ストライプH（突起付きH形鋼）の定着耐力が向上します。
- 2 剛結部内の煩雑な配筋作業が省略でき、施工時間の短縮と省力化が図れます。

